

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	3270101383		
法人名	有限会社 コナン		
事業所名	グループホーム 大森の家 (ひまわり)		
所在地	島根県松江市宍道町上来待 204-4		
自己評価作成日	平成22年12月27日	評価結果市町村受理日	平成23年4月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9-16
訪問調査日	平成23年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

田畑や山に囲まれた自然豊かな環境の中で、利用者一人ひとりがゆったりと自分らしい生活出来るよう個別ケアを心掛けている。敷地内には畑もあり職員や利用者で野菜を作ることも出来、食材に利用している。24時間看護師による健康管理を行っており協力医療機関との連携体制も整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)+ (Enter+)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で安心して暮らせるよう事業所独自の理念を掲げ全員が理念の意味を理解し利用者一人ひとりのペースに合わせたケアをするよう毎朝ミーティングをし理念に近づけるよう努力している。	ユニットのリーダーが主になり、ミーティングの中で理念を共有し、職員の意識統一を図っている。見えやすい場所に理念を掲げ、常に意識して業務にあたっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地区や公民館の行事には毎回利用者と参加し交流を図っている。地区の幼稚園とも交流がありお互いの行事に訪問し合ったりしている。	自治会に加入しており、地域全体から受け入れられ、地域の行事には必ず案内があり、利用者の体調に合わせて参加している。婦人会等のボランティアの訪問もあり、地域との交流は盛んに行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解をしていただけるよう行事には積極的に参加し地域の人とふれあう機会を作っている。施設の行事にも参加の案内をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い状況報告や意見交換をし利用者のケアに活かすようにしている。	昨年度の反省から、今年度は2か月に1回のペースで運営推進会議を開催している。行政、地域の関係者等の参加はあるが、家族は毎回同じ方が参加されることが多くなっている。	状況報告や意見交換に留まらず、家族等の参加者が興味を持てるような議題の検討をお願いしたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修や連絡会に参加したり運営推進会議で報告や相談等をしている。	運営推進会議には毎回市町村担当者の参加があり、またグループホーム部会等でも積極的に連携を持つようにしている。事業所の取り組みについても理解してもらっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が正しく理解しているとは言えない。勉強会を行い職員の意識向上と理解を深めるようにしている。今後も研修に参加したり勉強会を都度行って行く。	以前は身体拘束の委員会があったが、現在は稼働していない。勉強会を持ち少しずつ身体拘束についての理解をするようにしている。	身体拘束については、普段の身近な事柄、具体的な姿を通して研修をすることにより、より意識の向上に期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い職員の意識向上と理解を深めている。職員間でもお互いに意識し合い注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者がいないが権利擁護の研修などには今後も参加し学びたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解 納得を図っている	契約時には事業所の考え方や取り組み、退居時を含めた事業所の対応可能な範囲について重要事項説明書を用いて説明している。		
10	6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見要望は面会時にできるだけ話をするようにしたり電話連絡の際話を聴くようにしている。運営推進会議でも報告、話し合いをしている。	運営推進会議への家族の方の参加があるが、同じ顔ぶれなため、面会時にできるだけ関わり意見を求めている。遠方の家族には電話で聞くようにしている。	
11	7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のリーダーミーティングで意見や提案をする時間を確保している。個別の提案についても随時受け付けるような職場の環境作りに努力しており運営に反映させている。	人間関係は良好なため、いつでも意見の言える環境にあり、ケアについてや、勤務状況などについても意見、提案が多く、その都度検討し反映させるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境 条件の整備に努めている	定期昇給時や職務転換時において、個人の実績や職責に応じた評価、待遇となるように努めている。職員各自が向上心を持って働けるように、会社承認の研修会については費用を援助し参加を促している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できるよう研修の案内をしたり、職員のレベルに応じた研修を受ける機会を確保している。ヘルパーの資格の無い人は働きながらヘルパーの資格取得の講習を受講してもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を通して情報交換をし今後の取り組みの参考にしている。グループホーム部会の勉強会に職員が参加しサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談を行い、本人の置かれている状況や心身の状況を把握し本人と向き合いお話を聴きながら馴染みの関係を作り安心感をもって頂くようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時に今までの経緯や家族の思い、要望などを聴き今後のよりよい支援にむけて共に相談し合えるような信頼関係を作るように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時本人や家族とよく話し合い必要な支援を見極め、状況をみながら対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることを一緒にする場面を増やし少しでも生き活きと生活できるよう支援している。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等の機会に情報の共有に努めている。またお便りを通じて情報を伝え家族の意見も引き出すようにしている。		
20	⑧)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や親戚、知人の面会があった時には職員もまた来ていただけるような声がけや雰囲気作りを心がけている。また地区の行事などに参加し馴染みの方と触れあえる機会を作っている。	入所して日が浅い方は面会が多かったりするので、できるだけ関係が継続できるよう雰囲気作りに気を配ったり、電話利用ができる方には、その機会を多く持つように配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状況や気分に変化するので全ての利用者同士が上手に関わり合う関係ができているとは言えないが、二人位の関係では職員が間に入り利用者間の関係が円満になるよう動きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても家族から悩みや相談があれば対応する。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時家族、本人の意向を聞きケアプランに反映させている。本人からの聞き取りが難しい場合は家族に聞いたり日々の生活の中で見出してケアに活かすようにしている。	入所前の生活をできるだけ本人や家族から聞き、意見要望を踏まえたプランの作成に取り組んでいる。利用者本位を掲げているが、困難な場合には家族、関係者の意見を参考にしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報提供書や入居前に記入して頂く私の暮らし方シートを基に本人や家族に聞き取りをしこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りの時間を利用し、職員間で一人の状況を把握して、その日の過ごし方を大まかに決めて過ごして頂いている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は勿論、家族に1ヶ月に1回は訪問して頂き、ケアについて話し合い、説明の機会を設けている。担当者とサービス作成者と二人で介護計画を作成している。	利用者、家族の意見要望を基に、現状にあった介護計画の作成を心掛けている。毎月モニタリングし、カンファレンスの機会を持ち、見直しをするようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録 実践が直ぐに見られるようなカルテにしている。モニタリングについても担当者と作成者で作成し、1ヶ月1回の会議で発表している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて個別ケアを実践している。お買い物が好きの方は出来る限りお出掛けの日を作っている。入浴も本来は週2回であるが、1日おき 週3回 入って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカ・3B体操・音楽療法・習字等、各ボランティアの方々との交流がある。小学校・保育所の運動会や地域の行事に参加している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後の主治医変更については、本人・家族の希望する主治医としている。毎月1回、往診の形で受診して頂いていて、24時間体制で相談できる体制になっている。	入所前のかかりつけ医を継続する方、入所後に変更する方と本人、家族の意向に沿うようにしている。事業所のかかりつけ医とは密に連絡をとり、毎月の往診、緊急時、夜間など24時間対応に備えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置して、常に利用者に健康管理や状態変化に応じた支援が行えるよう努めている。看護職員が不在でも、記録を基に確実な連携が行えるよう努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院されたら、家族、主治医、職員間で病院との情報を共有し、連絡し合っている。入退院時にはサマリーで情報交換し、退院時には生活について話し合っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設で出来ること、出来ないことを明示し、早い段階から話し合いを重ね、家族との信頼関係を築いていき、家族・医師・看護師・ケアマネジャー・スタッフ間で方針を共有している。病状の変化に対しても情報を共有している。	入所時、事業所としての考えを伝えているが、重度化や終末期に向けては、その都度話し合いの機会を持ち、主治医とも相談のうえ、方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時消防署の協力を得て、救急法やAEDの使い方の訓練を受けている。緊急時初期対応について勉強会をして、全ての職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火災・土砂崩れ等色々な想定で独自の訓練を行っている。年1回は、消防署の協力で、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使用方法等の訓練を実施している。自治会や駐在所と連携をとっている。	年に1回は消防署の協力で、避難訓練を実施したり、土砂崩れも以前あったことから災害に合わせて訓練を行っている。緊急時は消防団や自治会、地元の団体等の協力を得る形や、近くに住む職員も対応できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務を守り、その方の人格を大切に心掛けています。記録物の持ち出しを禁止、プライバシーを保護するようにしています。利用者の方への声かけには尊厳をもって話しかけるよう気をつけています。	日常の言動がプライバシーを損なうような不適切なことがあれば、その場で注意し合うようにしている。トイレ介助等の場合もさりげない声かけで誘導している。紙パンツやパットが居室を開けると目につきやすいところに置かれている。	何事に於いても利用者の尊厳を守ることが常に考え、排泄用品の置き場所等への配慮の必要性を感じる。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり自己決定できるように働きかけている	その方に合った言葉かけで話し易いように導き、その方の思いや希望を聞くようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活の流れはあるが、本人の気持ちを優先している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回移動美容室を利用して、ヘアカラーや顔剃りを希望される方もおられる。毎朝及び入浴後の整容の支援を行っている。外出時にはお化粧をする時もある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の人には出来る範囲で準備や片付けを手伝って頂くようにしている。	食事の下準備、野菜の皮むき、テーブルやお膳を拭くなど役割分担をし、利用者のできることを手伝ってもらっている。食事メニューを紹介し楽しく食事できるようにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量には全職員が注意を払い、「1日表」に量を記入している。水分量がいつも少ない方には特に気を付け、トロミをつけたり、夏場は敢えてすまし汁をつけたりし、好みの物等で工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアを必ず施行している。利用者の状態に応じて介助したり見守りしている。義歯洗浄剤、ブラッシング等その方に合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が、排泄パターン時間毎のチェック表を用いて把握していく事で、タイミングよくトイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、チェック表を見ながら声がけ誘導している。重度でおむつ使用の方には、定期的な交換を行い不潔にならないようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューに野菜類や繊維質な食材を取り入れるようにしている。排泄チェックや水分摂取量の少ない方には水分量チェックを行い、補水に努めている。下剤処方されている方には、個々の状態に合わせている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は毎日設けている。利用者の希望を確認している訳ではないが、隔日を目標に午前 午後に分けて入浴してもらっている。入浴拒否のある方にはタイミングを見計らい対応している。	週3回は入浴できるように声がけし、希望に沿うような形で実施している。重度な方にはシャワーキャリーでシャワー浴や清拭で対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよ眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間、起床時間、起床時間は決まっていない。居室で眠れない方には、ホールの畳コーナーで寝て頂く等の配慮をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に最新の薬剤情報をカルテにファイルし、何時でも情報を得られるようにしている。臨時薬処方があったり、服薬変更の場合、業務日誌に書いたり、体調異変があればその都度申し送りをし、カルテに記録する。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から、個々の楽しみを見つけ、貼り絵・習字等を楽しんで頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望により1ヶ月に2回～4回お出掛けをしている。又、気分転換に週に1回程度、天気の良い日は外にてアフタヌーンティーを皆で楽しんでいる。地区の運動会・文化祭にも参加している。	天気や体調に考慮してできるだけ外にでかけるようにしている。地区の行事にも職員を多めに配置することで、できるだけ参加しており、地域の方との良い関係もできつつある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承の下にお金を持っておられる方や、外出時には施設で預かっている小遣いから渡せば、自分で支払をする方もある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されたら、事務所の電話を使用してもらっている。時々手紙を出したい希望の方には、便箋や切手を用意している。毎年、年賀状は全員出している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の各空間は清潔感があり穏やかに過ごせるよう配慮している。玄関にはなるべく生花を生けたりホールには季節ごとの貼り絵や飾り、利用者の作品などを置いている。	共有空間は長時間日の光が入り、明るく自然な温かさがある。空気清浄器や加湿器で過ごしやすいように配慮も見られる。天気の良い日には、外でお茶を楽しめるような庭もあり、高台で景色も良くつろげるようになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の空間では、利用者同士が座って洗濯物をたたんだり、話をしたり、横になったりして過ごしておられる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使い慣れた整理タンス等の家具など馴染みのものを持ち込んで頂くよう説明している。本人様の動きやすい配置にし、タンスには何が入っているか分かるよう張り紙をすることもある。	使い慣れた物やなつかしさが感じられる物などの、持ち込みを積極的にすすめており、生活しやすい居室になるように配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分らなくなる利用者に対しては、目印になるリボン、造花等を入りに付けて不安を少なめるようにしている。		